

公益社団法人 日本臨床細胞学会
2021年度第3回理事会 議事録

日時： 2021年11月20日（土） 7:30-9:30

場所： 米子コンベンションセンター2F 国際会議室
WEB同時開催

役員総数： 42名（理事 39名、監事 3名）

出席総数： 理事 39名

（理事）青木 大輔、阿部 仁、伊藤 仁、伊藤 潔、井上 健、植田 政嗣、榎本 隆之、小笠原 利忠、岡本 愛光、小田 瑞恵、齋藤 豪、佐藤 之俊、澁木 康雄、進 伸幸、田尻 琢磨、田畑 務、都築 豊徳、長尾 俊孝、中村 直哉、羽場 礼次、廣岡 保明、藤井 多久磨、前田 一郎、松浦 祐介、宮城 悦子、森井 英一、矢納 研二、山口 倫、横山 正俊、横山 良仁、若狭 朋子

インターネット会議システムにより出席

（理事）有廣 光司、伊豫田 明、大平 達夫、川名 敬、生水 真紀夫、森谷 卓也、三上 芳喜、渡利 英道

出席総数： 監事 3名

（監事）長村 義之、佐々木 寛、土屋 眞一

（総務委員会委員）山下 博

（総務委員会幹事）片岡 史夫

（制度審議委員会幹事）佐々木 陽介

インターネット会議システムにより出席

（総務委員会幹事）星 利良、和田 直樹

本理事会は、定足数を満たしたので有効に成立した。

テレビ会議システムにより、出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時適格な意見表明が互いにできる状態が確認され、議題の議事に入った。

議長： 進 伸幸 総務委員会委員長の司会進行

本議事録において定款第23条第3項で定める、理事長、副理事長及び常務理事の職務執行状況報告については*印を付す。

本理事会の開催にあたり、*佐藤之俊 理事長、*森井英一 副理事長[総括、事務局運営、編集]、齋藤豪 副理事長[専門医制度、専門医、臨床研究]、中村直哉 副理事長[認定試験、検査士、教育]、森谷卓也 副理事長[学術、国際交流、IAC]、岡本愛光 副理事長[財務、渉

外]の挨拶および報告が行われた。

*理事長報告・挨拶（佐藤 之俊）

第60回秋期大会にご尽力された廣岡保明大会長への謝意が述べられた。本年6月から新たな理事会・委員会構成となり、その半年弱での成果・報告を本理事会でレビューしていただき、今後の学会の発展に取り組んでいただきたい旨が本理事会出席者に伝えられた。本日の審議事項については、収支相償を含めた各種審議をお願いする旨が伝えられた。

*副理事長報告（齋藤 豪、中村 直哉、森谷 卓也、森井 英一、岡本 愛光）

齋藤 豪 副理事長： 婦人科細胞診の新しいがん検診スタイルの構築に取り組んでおり、具体化・完成に向け尽力する。

中村 直哉 副理事長： 検査士二次試験および専門医試験が本格化する時期になる。関係委員会の皆様のご協力をお願いしたい。

森谷 卓也 副理事長： 来年11月の国際細胞学会が開催される。JSCCよりワークショップ、シンポジウムなどのご提案を複数いただいている。ポストコロナの国際交流については、現地開催以外の方法も含めて検討していきたい。

森井 英一 副理事長： グーグルフォームなどのアンケートを活用し、事務局業務の効率化を図っていく。

岡本 愛光 副理事長： 収支相償については、当学会にとって有意義な使い道が求められると考えており、充実した討論をお願いしたい。

前回（2021年度第2回理事会）議事録について

2021年度第2回理事会の確認が行われた。

庶務報告（2021年11月1日現在）

全会員数：12,892名

（正会員 5,715名、準会員 6,930名、名誉会員 39名、功勞会員 192名、図書会員 15件）

細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：3,062名（実数）

（認定：細胞診専門医 3,864名、細胞診専門歯科医 104名）

FIAC：112名、MIAC：35名

細胞診検査士数：7,956名（実数）（認定 10,636名）

CT(IAC)：4,118名

物故会員（2021年6月2日～2021年11月1日）

功勞会員 桂^{かつら} 榮孝^{よしただか} 殿（京都病理研究会）

正会員 長嶋^{ながしま} 和郎^{かずお} 殿

はやし いつろう 殿 (中津胃腸病院 検査科)
よねます ひろとし 殿
準会員 竹田 繁美 殿 ((株) タケダ病理学センター)
なかそね かつ 殿 (琉球大学医学部附属病院 病理部)
すがお たつひこ 殿 (大阪済生会富田林病院 臨床検査科病理)

黙禱

会費滞納者

1年滞納者：909名、2年滞納者：257名、3年滞納者：144名 知り合いの会費滞納者に対して会費納入の呼びかけをしていただきたい。

第60回日本臨床細胞学会秋期大会 会長挨拶 (廣岡 保明、米子コンベンションセンター・米子市分化ホール[現地開催]2021年11月20日(土)～21日(日) / [web開催]2021年11月20日(土)～2022年1月13日(木))

今回の学会は、「細胞診の未来を語ろう」というテーマで開催し、事前参加登録は4,721名であることが報告された。

大会準備状況

第63回春季大会 (岡本 愛光、グランドプリンスホテル高輪、2022年6月10日(金)～12日(日))、第61回秋期大会 (伊藤 潔、仙台サンプラザホテル・ホテル仙台ガーデンパレス、2022年11月5日(土)～6日(日))、第64回春季大会 (藤井 多久磨、名古屋国際会議場、2023年6月9日(金)～11日(日))、第62回秋期大会 (横山 正俊、福岡国際会議場・福岡サンパレス、2023年11月4日(土)～5日(日))、第65回春季大会 (森井 英一、大阪国際会議場、2024年6月7日(金)～9日(日))の準備状況に関する報告が行われた。

業務執行報告

総務委員会 (委員長 進 伸幸)

[報告事項]

1. 事務局業務のweb化について：
順調に進んでいる。
2. 監事の総務委員会への出席について：
通信による総務委員会を開催し、学会運営にとって重要な議題がある場合は原則として監事の先生方へ総務委員会参加のご案内を出すことに決定した。
3. 総会委任状WEB回収
通信による総務委員会を開催し、法的に問題ないこと、また、2022年4月ごろのスケジュールを確認し、会員への周知、催促についても実行可能であることを事務局とともに確認した。オンライン選挙についての検討も現在進めている。

〔審議事項〕

1. 総会委任状 WEB 回収に関し、web ページ案が提示された。
審議結果⇒承認
2. 次年度の収支相償について：
計理委員会田端委員長より平成 28 年度～令和 2 年度の収支相償・余剰金明細が示され、令和 2 年度の期末累計余剰金 11,802,038 円を次年度に活用することをお願いしたい旨の報告がなされた。
使途についての各委員会へのアンケート結果では、公益法人 10 周年記念事業への積み立てへの賛同が多かったことが報告された。
審議結果⇒公益法人 10 周年記念事業を中心に複数項目を対象として検討していく。
3. 会員資格復帰希望者について
春季大会・理事会にて会費滞納により退会処分された 3 名より復会願いが提出された。
審議結果⇒承認

情報処理委員会（委員長 伊豫田 明）

〔報告事項〕

1. 掲載対応 1 件（許可）
2022 年日本臨床細胞学会総会（春期大会）イメージビデオでの日本臨床細胞学会ホームページ内の写真を掲載
2. ホームページへの掲載対応 2 件（許可）
 - 1) 医療科学研究所事務局より、「医療科学研究所 2021 年度研究助成募集のご案内」の HP 掲載依頼
 - 2) 日本サイトメトリー技術者認定協議会事務局より、「講習会・認定試験案内」の HP 掲載依頼

〔審議事項〕

なし

学術委員会（委員長 前田 一郎）

〔報告事項〕

1. 日本医学会創立 120 年記念誌「日本臨床細胞学会 学会の沿革」投稿を行った。
2. 医学会、「遺伝学用語に関するワーキンググループからの報告」
内容は” 「優性遺伝」「劣性遺伝」の 2 つの用語を「顕性遺伝」「潜性遺伝」に変更する提案” →日本臨床細胞学会 学術委員会として” 承認する” と返答した。
3. 甲状腺 overdiagnosis に関して「福島県県民健康調査病理診断コンセンサス会議」への回答を行った。

〔審議事項〕

1. 【学会賞】

川本雅司先生（帝京大学医学部附属溝口病院病理診断科 常勤客員教授）

学術委員会委員の評価では『学術発展に対する業績』8.9点（10点満点）『経歴・学会活動・教育など』4.8点（5点満点）『総合評価点』13.7点（15点満点）と高得点で満場一致の信任の評価であった。長年にわたる病理細胞診断と多数の論文，本学会への多大な功績があり，学会賞にふさわしい方である。

審議結果⇒承認

2. 【技師賞学術部門】

松本慎二先生（福岡大学病院 病理部・病理診断科 技師長）

学術委員会委員の評価では満場一致で信任の評価を得た。長年にわたる学会への多大な貢献に加え，英語論文も執筆されており，技術賞学術部門にふさわしい方である。

審議結果⇒承認

3. 【技師賞功労部門】

阿部英二先生（久留米大学医学部附属医療センター 臨床検査室 病理 副主任技師）

学術委員会委員の先生方の満場一致で信任の評価を得た。長年にわたる学会への多大な貢献をされ，技師賞功労部門にふさわしい方である。

審議結果⇒承認

4. 【班研究課題】

井上博文先生（岡山大学病院病理診断科/病理部・臨床検査技師）

班研究課題名：膵癌超音波内視鏡下穿刺吸引生検時の液状細胞診検体を用いたがん遺伝子パネル検査への新たな検体処理法開発と標準化

3題の応募があり，独創性，合理性，インパクト，将来性の項目を点数化，評価。井上博文先生 212点（他応募研究者 200点，198点）を獲得し，井上博文先生の研究課題を推薦する。

※技師賞功労部門は各共同研究者，同一施設内関係者は選考を辞退していただき学術委員 21名で評価した。

（選考辞退者：河原明彦）

※班研究課題公募書類提出時，倫理審査申請中であったが，井上博文先生の自施設における倫理審査承認が10月29日付けで降りた。

審議結果⇒承認

5. 学術集会のあり方・申し合わせ事項(JSCC内規・申合集抜粋)改変

web開催に対応する学術集会（現地開催、web開催、ハイブリッド開催）のあり方を検討した。

審議結果⇒承認（オンデマンド配信については、撮影・録画は大会長の業務となるが、配信は学会事務局の業務となり、配信に関する費用は学会が負担する方向となる。）

6. 日本臨床細胞学会の特別学術研究，研究助成金に対する研究成果報告書（案）

審議結果⇒承認

計理委員会（委員長 田畑 務）

〔報告事項〕

1. 2021年9月2日（木）WEB会議で、佐藤 之俊理事長、土屋 眞一監事、長村 義之監事、会計事務所 中田 ちず子氏、糸永 圭一氏のもと、秋の監査会を開催した。6月に開催された第62回日本臨床細胞学会総会（春期大会）の収支決算（暫定）、2022年開催の第63回日本臨床細胞学会総会（春期大会）・第61回日本臨床細胞学会秋期大会の予算案の確認が行われた。
2. 各委員会・ワーキンググループ 2021年度予算の実行と2022年度の予算案作成依頼について： コロナ禍において会議、交通費に関する予算の執行が滞っており、適切な執行をお願いしたい旨の報告が行われた。

〔審議事項〕

1. 計理関係規程の修正について
 - 1) 印章取扱規約（案）
審議結果⇒承認
 - 2) 学術集会に関する大会計理マニュアルの改訂（各大会の収支予算書の提出期限を、開催の前事業年度の8月末とする）
審議結果⇒承認
 - 3) 報酬等の支給及び支出基準要項の改訂（宿泊費上限を15,000円への引き上げ）
審議結果⇒承認
 - 4) 寄附金お振込依頼の改訂（年号の表記を西暦へ変更、銀行名の変更）
審議結果⇒承認
 - 5) 細胞診専門医会に関する施行細則（専門医会の収支決算書の理事会への報告：専門医総務会での承認後→会計担当者に確認後）
審議結果⇒継続審議（専門医会で検討後、学会へ報告する）
 - 6) 「計理」と「経理」を統一するか否か
審議結果⇒継続審議（管轄官庁に確認の上で統一するか現状のままとするか検討していく。）

編集委員会（委員長 矢納 研二）

〔報告事項〕

1. 44 編の論文が投稿され、非採用 1、採用 26、編集作業中 17。
投稿論文数は減少傾向にある。特に医師会員からの原著・総説が減少している。
2. J-STAGE 運用に関する広報活動を、編集委員会幹事を主体として検討中。

〔審議事項〕

1. 投稿時に提出して頂く、利益相反自己申告書の一部修正について
審議結果⇒承認
2. 論文投稿時チェックリスト作成について
審議結果⇒承認

細胞診専門医委員会（委員長 植田 政嗣）

〔報告事項〕

1. 令和 3 年度細胞診専門医資格認定試験
2021 年 12 月 18 日（土）に AP 浜松町で行う。新型コロナウイルスの終息が見えない中で、今年度の試験についても、顕微鏡を用いた検鏡試験ではなく、バーチャルスライドで行う予定である。筆記試験および印刷物による細胞診断試験（プリント問題）については、従来通りに実施する。9 月 4 日（土）に受験資格審査会を行い、総合科 148 名、歯科 13 名、計 161 名の受験資格を認定した。なお、今秋に病理専門医受験予定の 28 名については、合格通知の確認により受験資格を与えることが了承された。
2. 令和 3 年度細胞診専門医資格更新
今年度の対象者ナンバーは、0774-0899、1171-1241、1447-1509、1711-1797、2160-2274、2578-2672、2962-3051、3326-3404、8001-8017、8046-8055 である。5 年毎更新の新単位制度による 2 回目の資格更新となる。昨年同様に、資格更新申請用フォーマットによる web 申請とする。
3. e ラーニングについて
e ラーニングシステムを構築し 2019 年 2 月より運用を開始した。現在までに共通講習 30 コンテンツ（含 指導医講習 5 コンテンツ）、領域講習 40 コンテンツ、検査士講習 13 コンテンツをアップした。
4. サブスペシャリティー領域専門医について
9 月 3 日（金）に日産婦学会内のサブスペ領域連絡協議会に web 参加した。今後日本専門医機構が、既に認定されている内科、外科系の 21 学会以外をサブスペ認定することは難しいとの報告があった。また、学会認定専門医も機構認定専門医と同様に広告可能であり、当面その方向性は変わらないことが確認された。細胞診専門医のサブスペ専門医

への申請については、機構認定医へのハードルが高いことや、デメリットも多いことから、現状では見合わせる方向がすでに理事会決定されている。

5. 細胞診精度管理アドバイザーについて

新しいがん検診スタイルに適応した細胞診専門医あり方検討ワーキンググループ（齋藤豪委員長）では、婦人科の子宮頸がん検診が今後細胞診のみではなく HPV 単独ないし併用検診となる事が予想され、その場合にもがん検診の指導的立場に立てるように新たに制度を構築していく必要が議論されてきた。本委員会としては、細胞診精度管理アドバイザー（子宮頸部）の位置づけや具体的役割等について、今後松浦祐介担当理事を中心に検討を進めることが了承された。

6. 青木 大輔 理事より、専門医資格更新に関するホームページ上での案内が今年度版に更新されていない旨の指摘があり、早急に確認および更新を行うこととなった。

〔審議事項〕

なし

施設認定制度委員会（委員長 廣岡 保明）

〔報告事項〕

1. 2021 年度新規施設認定について ※締切：2021 年 4 月 30 日（木）
8 施設の申請があった。審査の結果、5 施設が認定、3 施設が条件付き認定となった。条件の内容は、細胞検査士の 1 日最大検体数を定めていない、細胞検査士の検査検体数の記録をしていない、等であった。本年度中に改善された場合は、条件付認定を通常の認定に変更する
2. 2021 年度新規教育研修施設認定について ※締切：2021 年 4 月 30 日（木）
4 施設の申請があり、審査の結果 4 施設すべて認定となった
3. 2021 年度認定施設更新状況（最終報告）
更新対象認定施設なし
4. 2021 年度教育研修施設更新状況（最終報告）
全 17 施設（更新対象認定施設番号：0173-0179, 0319-0329）中、更新完了：17 施設（100%）
（認定証発送済み）
5. 2020 年度施設年報提出状況（2021 年 8 月 13 日現在）
全 857 施設中 提出：845 施設（98.6%）、未提出：12 施設（1.4%）
6. 2020 年度教育研修施設年報提出状況（2021 年 7 月 26 日現在）
全 328 施設中 提出済：326 施設（99.4%）、未提出：2 施設（0.6%）
7. 内部精度管理（実地調査）について
 - 1) 2020 年度内部精度管理はコロナ禍のため実地調査は困難と判断し書類審査を 4 施設に行った。その結果、該当施設（徳島赤十字病院、横浜市立大学附属市民総合医療

センター、福岡医療団千鳥橋病院、加古川中央市民病院)のいずれも、調査項目すべてにおいて良好な評価であり、総合評価【良】と判定された

- 2) 2021年度内部精度管理については、今後、同ワーキンググループ(浦野誠WG長)のもとで調査施設の検討、調査員の決定を行い、2021年度中に実施予定であるが、コロナ禍が遷延した場合は書類審査予定とする

8. 外部精度管理(コントロールサーベイ)について

1) 第8回コントロールサーベイについて

2020年10月1日 全認定施設(852施設)にコントロールサーベイのDVD/解答用紙を発送した。全認定施設852施設の内、参加:822(96.5%)、不参加:29(3.4%)、認定廃止:1(0.1%)

結果及び解答の詳細は2021年1月に学会ホームページに掲載した

第62回日本臨床細胞学会総会(2021.6.5 13:20~)で問題の解説を行った

2) 第9回コントロールサーベイについて

2021年度は行わず、2022年度に実施予定

9. その他

佐々木幹事より、2019、2020年度ともに年報が提出された765施設を対象として業務量の解析結果が報告された。

- 1) 2019年度に比較して2020年度では全体に検体数は減少した。特に呼吸器と健診が顕著に減少した。大学病院は1割減少したが呼吸器・ベセスダ分類婦人科は増加した。一般病院はすべてで減少した。検診機関では特に検診の検体が著明に減少した。登録衛生検査所は消化器、乳腺・甲状腺が2020年度に減少した。

第60回日本臨床細胞学会・秋期大会(11月)で報告予定

- 2) 上記の検体数の減少はコロナによる可能性が高いことより、コロナ収束後に再度調査する必要がある

10. 以下の検討事項を現在施設認定制度委員会で審議中である。審議を終えたら理事会に諮る。

- 1) 施設認定に関する施行細則の整理について
- 2) 施設認定に関する施行細則・附則と精度管理ガイドラインの整理について
- 3) 施設認定に関する申請料について

[審議事項]

なし

細胞検査士委員会(委員長 都築 豊徳)

[報告事項]

1. 2021年度(第54回)細胞検査士資格認定試験

一次試験は2021年10月30日(土)に、CIVIC研修センター新大阪東及び新大阪丸ビル別館にて実施。受検者は629名(521名)。 ※()内は昨年度志願者数

受験結果 総受験者 629名(実受験者 625名、欠席者 4名)

合格者 405名 合格率 64.8%

二次試験は2021年12月4日(土)・5日(日)に、虎ノ門ヒルズ フォーラムにて実施する予定。受検者は559名(435名)。

2. 2021年CT(IAC)資格認定試験

2021年は延期の方針(コロナの影響)となる。

[審議事項]

1. 来年度の二次試験は愛知県名古屋市、名古屋駅前のウイंक愛知で行う予定である。その理由として、各地域での試験会場候補が割高であること、COVID-19感染が落ち着いた場合に更に会場費の高騰が予想されることである。ウイंक愛知は愛知県が所持する公共施設で有り、会場費の変動はない。受験生のアクセスが問題となるが、名古屋市駅前の立地であること(徒歩3分程度)、周囲の宿泊施設が豊富であることから、問題は少ないと思われる。スタッフに関しては、愛知県を中心に各地域の臨床細胞学会並びに検査士会の協力の内諾が得られている。

審議結果⇒承認(質疑:・県の施設を安定的に借用することが可能かについて・・・通常開催1年前の登録となるが、大きな学会については先行登録が可能な制度となっており、制度変更がなければ可能である。・試験時間が8時～21時と長時間にわたることおよび試験運営の恒常性について・・・東京での試験実施においては、宿泊をしない関東地方からの受験者は早朝や夜に試験を組めないという問題があり、宿泊する受験者が多い方が試験時間の調整が容易であるというメリットがある。運営については、恒常性を担保しつつ他の地域にノウハウを広めていくことが裾野を広げることに繋がる。・検査士会としても運営に協力していく。)

2. 試験会場における、感染対策費が高額化している。現状を変更することは難しいが、どこかの時点で感染対策費を削減する必要がある。

審議結果⇒承認(削減の方向で進める。)

細胞検査士資格更新審査委員会(委員長 井上 健)

[報告事項]

1. 2021年度細胞検査士資格更新作業

138-194、364-439、760-912、1147-1353、2068-2258、2913-3119、3932-4209、4942-5134、5813-6050、6574-6748、7450-7685、8318-8612、9365-9558(更新対象者 グリーン・カ

ードを持つ2,500名)

2. 2020年度細胞検査士資格更新作業

更新対象者なし

3. 2019年度細胞検査士資格更新作業

01830～02067、02693～02912、03667～03931、04726～04941、05619～05812、06370～06573、
07209～07449、08159～08317、09152～09364

[審議事項]

なし

教育委員会 (委員長 生水 真紀夫)

[報告事項]

1. 細胞診断学セミナーWeb開催した(2021年9月9日(木)09:00～9月27日(月)23:59まで)。受講者123名
2. 第81回細胞検査士教育セミナーをWeb開催した(2021年8月20日(金)9:00～9月6日(月)9:00)。受講者1642名
3. 第82回細胞検査士ワークショップ(講義のみ)Web開催した(2021年7月30日(金)9:00～8月10日(火)9:00)。受講者1046名
4. 当面のセミナー開催については、必要に応じてWeb開催に変更することが承認されている。感染状況を見ながら今後の開催形式を決める。
5. 【開催中止】第130回細胞検査士養成講習会、第82回細胞検査士教育セミナー
6. 来年度のセミナー開催についても本年度と同様に、現地開催およびWeb開催の両者で対応できるように進めている。

[審議事項]

なし

渉外・広報委員会 (委員長 三上 芳喜)

[報告事項]

1. 会員へ広報を行う。
2. 他学会との会議に参加し、情報を収集・共有することによって、本学会との連携を更にレベルアップする。
3. 広報事業として、学会の存在を更に周知させるために諸団体が開催する公開講座や関連学会を積極的に後援していく。
4. 他学会等からの共催・協賛・後援に関する申請等について
 - 1) 公益社団法人 医療科学研究所より、『医療科学研究所 2021年度研究助成募集のご

案内』の本学会 HP ページへの掲載依頼があり、情報処理委員長に確認の上掲載した。

- 2) 日本癌治療認定医機構より『2021年度 教育セミナーおよび認定医試験の申し込みについて』の周知依頼があり、情報処理委員長に確認の上掲載した。
 - 3) 日本サイトメトリー技術者認定協議会事務局より『2021年度教育セミナー・認定医試験の申し込みについて』のHP掲載依頼があり、情報処理委員長に確認の上掲載した。
 - 4) 日本医学会より医学用語代委員の選出依頼があり、佐藤理事長の承認を得て三上渉外・広報委員会委員長（あて職）が就任した。
5. 他学会等との会議出席等について
- 1) 公益社団法人 日本臨床検査標準協議会 定時総会（令和3年度）に出席した（三上芳喜）。
 - 2) 一般財団法人 医療関連サービス振興会 衛生検査所調査指導中央委員会に出席した（令和3年度第2回：三上芳喜）。
 - 3) 一般財団法人 医療関連サービス振興会 『医療法改訂に伴うチェックリスト改訂ワーキンググループ』（小田委員）
 - ・細胞検査に関するチェックリストについて、本学会の『認定施設に対する細胞診精度管理ガイドライン』の内容と齟齬がないものとなるよう改定
6. 渉外広報委員会が担当している他学会や諸団体等
- 1) 一般財団法人 医療関連サービス振興会 サービスマーク認定に係る審査調査指導中央委員会
 - 2) 一般財団法人 医療関連サービス振興会 「医療法改正に伴うチェックリスト改訂ワーキンググループ」→2021年9月で終了予定
 - 4) 一般財団法人 医療関連サービス振興会 衛生検査所専門部会
 - 5) 日本臨床検査標準協議会 正会員
 - 6) 日本がん治療認定医機構 関連学会
 - 7) 日本医学会分化会医学用語委員会 代委員
7. 継続予定の業務
- 2020年6月に細胞検査士会と細胞検査士委員会が日本臨床細胞学会会員に実施した。『新型コロナウイルスによる業務への影響についての緊急実態調査』のアンケート結果を踏まえて、HPに「新しい生活様式の中でのがん検診についての提言」を行った。今年も同様のアンケート調査を行う計画があるので、その結果を広報する予定である。

〔審議事項〕

1. 令和3年度第1回委員会（2021年6月4日）において、HPVワクチンの広報を行うよう提案があった。これを前向きに検討して実施したい。

- ・ 市民への広報はがん検診と同様に HPV ワクチンに関しても重要であると考えられる。最近厚生労働省が勧奨再開に向けて議論を再開し、COVID-19 の蔓延に伴いワクチンへの関心が国民の間で高まっている。HPV ワクチンに関しては日本産婦人科学会の HPV に一般の方向けに分かり易く丁寧な内容が掲載されている。こうした状況を踏まえ、理事会で本件について了承を得た後に準備を進めたいと考えている。本学会としてオリジナルを作成するか、日本産婦人科学会の HP とリンクするのかなどについては、情報収集を行いながら今後議論を進めていく。

審議結果⇒承認（日本産婦人科学会の HP とのリンク、当学会からの理事長声明を発表する方向で進める。）

社会保険委員会（委員長 若狭 朋子）

[報告事項]

1. 2022 年診療報酬改正にかかる医療技術評価提案書 9 項目を内保連から厚生労働省に提出した。

未収載項目

1. 感染対策加算
2. 細胞診精度管理料
3. 婦人科子宮頸部細胞診自動判定支援加算
4. 国際標準病理診断管理加算

既収載項目として

1. 細胞診断料の見直し、婦人科細胞診への適用拡大
 2. 迅速細胞診（検査中の場合）、適用疾患の拡大
 3. 免疫染色、細胞診標本への適用拡大
 4. 液状化検体細胞診加算の見直し
 5. 迅速細胞診（検査中の場合）、適用疾患の拡大
2. 令和 3 年 7 月 19 日に厚生労働省のヒアリングが開催された。佐藤理事長とともに、社会保険委員会からは 若狭、中里委員、田中京子委員が出席した。①感染対策加算、②細胞診断料の見直し、婦人科細胞診への適用拡大、の二項目について若狭よりプレゼンテーションした。プレゼンテーションしなかった項目についても質疑応答がなされ、追加資料の提出を求められた。追加資料については 7 月 26 日に提出した。11 月初旬に開かれた医療技術評価委員会において、感染対策加算は医療技術ではなく管理加算であり同委員会での案件ではないため削除となったが、他の項目は一次審査を通過した状況である。

[審議事項]

なし

地域連絡委員会（委員長 伊藤 潔）

〔報告事項〕

1. 2019年度、2020年度都道府県地域連携組織・連合地域連携組織活動報告について
 - 1) 2019年度報告書の不明部分を再度問合せし、修正中。
 - 2) 2020年度報告書の提出の案内は、2022年1月より開始予定である。

2. 地域連携組織に対する助成金による支援（子宮の日）について
 - 1) 2021年度の活動支援の申請件数 41件（47件中）

（申請なし 6件：富山県、滋賀県、鳥取県、岡山県、山口県、長崎県）

実施内容報告書を提出した地域学会に支援を行う。

助成金の交付は上限5万円を上限とした。

2021年9月15日現在 調査集計 内訳（申請件数41件中）

開催中止：0件（未申請含む）

開催実施済：17件

開催予定（現在開催中も含む）：16件

未定（問い合わせ中）：8件
 - 2) 2022年度の地域連携組織に対する活動支援は、支援費用については5万円を上限とし、希望地域は2022年3月末日までに、企画書を提出するように依頼する。

〔審議事項〕

なし

国際交流委員会（委員長 榎本 隆之）

〔報告事項〕

1. 春期、秋期大会時におけるグローバルアジアフォーラムの支援
 - 第62回日本臨床細胞学会総会春期大会；2021年6月4日（金）～6日（日）；横浜
→ realでの海外演者の招聘はなし
 - 第60回日本臨床細胞学会秋期大会；2021年11月20日（土）～21日（日）；米子
→ 予算・運営等の事情により開催見合わせ
 - 第63回日本臨床細胞学会総会春期大会；2022年6月10日（金）～12日（日）；東京
→ 開催に向け、委員会と学術集会側でテーマ・座長など相談中
2. 日-韓、日-タイ、日-中 合同カンファレンス（合同会議）のサポート
 - 第19回日韓細胞診合同会議；2021年9月4日（土） 韓国（予定）
→ 2022年に再延期
 - 第28回日-タイ細胞診ワークショップ
会期：2022年1月19日（水）～21日（金）

会場：Shangri-La Hotel, Chiang Mai, Thailand

は新型コロナウイルスの世界的蔓延および日本政府による海外渡航制限などの影響より、再び「中止」

On-line 形式での web 開催は予定なし

現時点では、再開は 2023 年 01 月を予定・検討中

3. JHU-ASC-JSCC 合同ワークショップ 2021 の企画、運営
2021 年秋頃（未定）としていたが、米国との往来が可能になった時点で再考予定
4. IAC, ECC のサポート
Companion Meeting Japan in ECC 2020 ; 2021 年 10 月 3 日(日)～6 日(水) ポーランド・ヴロツワフ (Hybrid 開催)
→ 日本から座長 2 名(長村 義之監事、榎本 隆之理事)、演者 5 名(西村 理恵子先生、大橋 隆治先生、樋口 佳代子先生、西野 幸治先生、南 優子先生) が参加した。
5. オーストラリアとの交流
6. カンボジアとの交流サポート
学術集会への招請が可能のように 2 名分のトラベルグラントを計上・準備したものの現状困難。来年度の交流を検討している。
7. 国際交流に関わる海外情報の収集および本学会からの発信

〔審議事項〕

なし

制度審議委員会（委員長 宮城 悦子）

〔報告事項〕

1. 編集委員会より審議依頼があった「投稿者の利益相反報告書」令和 3 年 8 月 4 日（水）より 8 月 9 日（月）に改定についてメール審議を行った。
2. 計理委員会より審議依頼があった下記について令和 3 年 9 月 9 日（木）より 9 月 20 日（月）に審議を行った。
 - 1) JSCC 内規・申し合わせ事項 p. 50 「公益社団法人日本臨床細胞学会学術集会に関する大会計理マニュアル」
 - 2) JSCC 内規・申合集 p. 7 「公益社団法人 日本臨床細胞学会報酬等の支給及び支出基準要綱」
 - 3) JSCC 内規・申合集 p. 10-11 「公益社団法人 日本臨床細胞学会に対する寄附金お振込依頼」
 - 4) 定款・施行細則集 p. 82 「公益社団法人 日本臨床細胞学会細胞診専門医会に関する施行細則」
3. 計理委員会より審議依頼があった下記について令和 3 年 11 月 2 日（火）より 11 月 8 日

(月)に審議を行った。

- 1) 経理規定 (案)
- 2) 印章取扱い規定 (案)

[審議事項]

1. 「計理」と「経理」の表記について、統一する方針で結論が出た場合は、本日付けで変更することによいか。
審議結果⇒承認 (内閣府への確認後に統一することが決定した場合、遡って本日付けで変更することが承認された。)
2. 細胞診専門医会に関する施行細則 (専門医会の収支決算書の理事会への報告：専門医総務会での承認後⇒会計担当者に確認後) の変更について
審議結果⇒継続審議 (次回の理事会までに審議を進めていく。)

医療安全委員会 (委員長 藤井 多久磨)

[報告事項]

1. MSC ホットラインの事例が発生した場合の体制を整えておく
(鑑定人およびそれに関する臨時の全域)
2. 医療安全セミナー開催予定
第 60 回日本臨床細胞学会秋期大会
演題名：病理・細胞診断の標準化のための ISO15189 (仮)
演者：岡山大学病院病理診断科 柳井広之先生
座長：藤田医科大学医学部産婦人科学 教授 藤井多久磨先生
日時：2021 年 11 月 20 日 (土) 17:00～18:00
会場：第一会場 (米子コンベンションセンター：多目的ホール)
3. MSC ホットラインの活動報告
今期、MSC ホットラインへの相談実績はなかった。
4. 医療事故調査機構の情報について
日本臨床細胞学会への調査要請は今のところない。

[審議事項]

なし

倫理委員会 (委員長 伊藤 仁)

[報告事項]

なし

〔審議事項〕

1. 学会発表・論文投稿倫理指針（案）を作製したので、ご審議をお願いしたい。
審議結果⇒承認（制度審議委員会で審議の上で、本日付けで施行細則に加えることが承認された。）

利益相反委員会（委員長 大平 達夫）

〔報告事項〕

1. 役員および発表者（非会員含む）の事業活動に係わる COI 状態の判断ならびに助言、指導を行う。
2. 会員個人の COI 申告に関する疑惑が生じた時は調査活動、関係する施設・機関との情報交換、改善措置の勧告を行う。
3. 2020 年利益相反自己申告書の提出依頼をする。利益相反自己申告書の提出を依頼した 106 名全員より回答を得た。
4. 改訂された「細胞診断学に関連する医学研究の、利益相反に関する指針の施行細則に沿うように、「細胞診断学に関連する医学研究の利益相反指針・細則に関する Q&A」の確認・改訂が必要ということで準備中です。

〔審議事項〕

なし

臨床試験審査委員会（委員長 小田 瑞恵）

〔報告事項〕

1. 2021. 6. 4 臨床試験審査委員会を開催し、2019. 2020 年度の田畑委員長から業務の引継ぎを受けました。
2. 現在、「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究」（CITRUS スタディ）（臨床試験主任研究者、青木大輔先生）が進行中です。
3. 現在、新規に提出された臨床試験はありませんでした。

〔審議事項〕

なし

IAC 連絡委員会（委員長 青木 大輔）

〔報告事項〕

第 21 回国際細胞学会 The 21st International Congress of Cytology, ICC2022 が 2022 年 11 月 14 日（月）～19 日（土）に アメリカのメリーランド州ボルチモアで開催される予

定である。第70回アメリカ細胞病理学会 the 70th Annual Scientific Meeting of the American Society of Cytopathology と同時開催となる。以上について周知した。ICC2022/70th ASC のHP が更新された。2022年1月24日を締め切りとしてProposal をWeb site から募集中である。

長村 義之 監事より、以下の2点につきアナウンスがあった。ICC2022/70th ASC に多くの方の登録・参加をお願いしたい。ICC2022/70th ASC から送られてきた動画を今大会においてプログラムの幕間でご紹介したい。

〔審議事項〕

なし

臨床試験ワーキンググループ (委員長 進 伸幸)

〔報告事項〕

1. 『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診とHPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究 (CITRUS study)』(山梨県、千葉県柏市) の継続
昨年度に引き続き、添付資料のように研究事業を継続する。

以下、引き継ぎ事項：

1. 研究期間の延長

被験者の6年目の検診結果の把握も含めたデータの収集、解析作業、論文公表のために、研究期間を2023年3月31日までと2年間延長させていただいた。

2. 研究資金

2021年度以降、単年度ごとに臨床試験ワーキンググループとしての事業計画、予算案を提出し、本学会の予算から研究費を拠出していただく。

3. 論文作成

論文を研究期間内を目途に作成。論文には本学会から研究費を含め人的、物的な援助を受けたことを明記する。

〔審議事項〕

なし

ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ (委員長 森井 英一)

〔報告事項〕

1. 細胞診、特にセルブロック検体の作成方法の違いによる核酸の品質検討を行う。
2. ゲノム診療時代において、細胞診はDNA/RNA の重要なソースであるが、その品質保証に

ついでの実証実験はされていない。本ワーキングでは様々な状況における細胞診検体における DNA/RNA 品質を検証する。

3. 会議をオンラインで複数回行い、指針の初版をまとめた。理事に回覧した後、HP にてパブリックコメントを得た。
4. パブリックコメントへの対応を行い、初版を完成した。
5. 指針の初版の英語版の作成については、業者もほぼ決定し最終審議を行っている。また、第2版を早期に出せるよう審議を行っている。

〔審議事項〕

なし

ゲノム時代における呼吸器細胞診検体処理の精度管理ワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊）

〔報告事項〕

1. ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループの事業に協力し、がんゲノム診療における細胞検体の取扱い指針作成の一部を担当した。
2. 液状化検体細胞診における検討を進める。

〔審議事項〕

なし

肺癌細胞診の診断判定基準の見直しワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊）

〔報告事項〕

1. IAC-WHO (IARC)が進める呼吸器細胞診国際基準の出版に協力する。
2. 日本肺癌学会とともに肺癌取扱い規約の改訂に協力する。
3. 構造異型の所見の標準化を目指し、細胞所見のWEB公開を目指しパブリックコメントを募集した。
4. 本WGにおいて新たな4段階の判定基準を提案し、追加検討した結果が Acta Cytologica (IF: 2.3) に採用となった。(Yoshizawa A et al. Cytology reporting system for lung cancer from the Japan Lung Cancer Society and the Japanese Society of Clinical Cytology: Extensive study containing more benign lesions)

〔審議事項〕

なし

IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ (委員長 森谷 卓也)

〔報告事項〕

1. 委員の施設から 1,727 病変のデータを収集し、分析を行った。
2. 結果について検討中。
3. 成果は学会発表 (第 61 回秋期大会での発表を目指す)、論文化の予定。

〔審議事項〕

なし

細胞診ガイドライン改訂ワーキンググループ (委員長 森谷 卓也)

〔報告事項〕

1. ワーキンググループのメンバー、および臓器・領域別の小委員会委員を委嘱した。
2. 小委員会ごとに改定すべき項目を抽出した。
3. 12 月末までに、各小委員会で改定原稿を作成することとした。年度内の完成を目指している。

〔審議事項〕

なし

デジタルサイロロジー・AI 検討ワーキンググループ (委員長 前田 一郎)

〔報告事項〕

1. 委員の選考中
「デジタルサイロロジーの普及、機械学習 (特に深層学習を使用した人工知能) を搭載した細胞診診断補助機器を検証する研究」 ホロジック社研究費寄付金 申請中

〔審議事項〕

なし

その他

〔報告事項〕

1. 細胞検査士会引き継ぎについて
第 62 回日本臨床細胞学会春季大会細胞検査士会総会後に新たな委員会組織が発足し、引き継ぎは順調に行われていることが報告された。
2. eラーニングについて
決済に進めないというシステムトラブルも改善済みで、順調に行われている。

[審議事項]

1. 評議員選出委員会委員長承認

審議結果⇒承認（2023・2024年度の評議員選出委員会の候補者（下記）が提示され、承認された。）

委員長： 森井 英一（副理事長）

総務担当理事： 伊藤 仁、伊豫田 明

理事：

1) 婦人科系からの委員 5名

小田 瑞恵、生水 真紀夫、進 伸幸、田畑 務、矢納 研二

2) その他の領域からの委員 7名

呼吸器 大平 達夫

消化器 廣岡 保明

病理 井上 健、都築 豊徳、羽場 礼次、前田 一郎、三上 芳喜

3) 細胞検査士 2名

阿部 仁、澁木 康雄

幹事（総務委員会幹事）：片岡 史夫、星 利良、和田 直樹

2. 役員選挙スケジュール案について

例年通りのスケジュールとなり、申請締め切りは2022年4月11日（月）正午を予定している。

審議結果⇒承認

3. 2024年度（第63回）秋期大会長選出について

ホームページ等を通じ募集した結果、2名より応募があり、大会長の選出メンバーにおける厳正な審査の結果、進 伸幸 理事（国際医療福祉大学 成田病院 婦人科）を推薦することとなった。

審議結果⇒承認

学術集会長候補者の選出メンバーは以下のとおりであり、選出作業は本理事会開催前にもって行われた。

理事長 佐藤 之俊

副理事長 森井英一、齋藤豪、中村直哉、森谷卓也、岡本愛光

学術委員会委員長 前田 一郎

（役員等選任に関する施行細則第2条より）

4. 今後の日本臨床細胞学会誌のあり方について

編集委員会で検討していくこととなった。

以上でインターネット会議システムを併用した本理事会は、終始異状なく議題の審議を終了し、中村 直哉 副理事長の閉会挨拶をもって終了した。

2022 年 3 月 12 日

この議事録が正確であることを証します。

理事長 佐藤 之俊



監事 長村 義之



監事 佐々木 寛



監事 土屋 眞一

